

専務グループ

法令会計審査局 事業計画（案）

法令会計審査局 局長 豊崎 道教

1 私たち宇都宮青年会議所は、この地域とともに明るい豊かな社会を創りあげていくため
2 に、市民一人ひとりの成長とともに運動を推し進め、社会から信頼を得られるより公益性
3 の高い事業を構築していくことが求められています。そのためには、私たち一人ひとりが
4 公益法人である社会的使命と組織の役割を認識し、透明性があり厳格な組織運営をしてい
5 かなくってはなりません。

6 まず私たちは、公益法人としての責任を全うするために、それぞれの組織運営を相対的
7 な観点から管理体制を確立し、社会から信頼される透明性のある組織運営と健全な財務運
8 営を行っていきます。次に、社会に必要とされる事業の構築のため、相対支出・費用対効
9 果を重視した財政審査を実施し、各委員会がより公益性の高い事業の構築ができるように
10 支援を行います。コンプライアンス審査、公益審査では、公益法人としての社会的責任に
11 応えるため、関係主務官庁及び外部アドバイザーとの連携を図るとともに、定款、規程の
12 適切な管理を行います。また、担当事業では、市民一人ひとりの成長のために経営資質の
13 向上につながる事業を実施し、メンバーや市民の人財の創出につなげます。そして、全国
14 大会主管に向けた招致活動において、関連する諸大会及び各種事業に積極的な参加と協力
15 をしていきます。さらには、地域をより良くする市民運動を伝播させるため、年間を通し
16 て積極的な会員の拡大に努めます。

17 公益法人としての組織運営のもと、財政審査、コンプライアンス、公益審査の厳格化、
18 そして人材の創出を推進していくことで、社会から信頼が得られる優れた組織の確立を実
19 現します。

20 <事業計画>

- 21 1. 公益社団法人としての透明性のある組織運営と健全な財務運営
- 22 2. 各種事業の財政審査、コンプライアンス審査、公益審査の実施
- 23 3. 公益社団法人としての定款、規程管理
- 24 4. 事業計画書の作成指導及び審査と主務官庁との連携
- 25 5. 経営資質の向上に繋がる事業の実施
- 26 6. 外部アドバイザーとの連携
- 27 7. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 28 8. 積極的な会員拡大
- 29 9. 全国大会招致活動への積極的な協力

専務グループ

総務委員会 事業計画（案）

総務委員会 委員長 辻 善文

1 明るい豊かな社会を築くために我々が模範となり、社会から必要とされ、市民から信頼を集
2 める組織を築き上げていく必要があります。厳格な組織運営が基盤にあるからこそ英知を集
3 め、統率力、組織力を発揮することができ、宇都宮 J C の運動が効果的に波及され社会に対
4 して説得力を持つことにつながります。そのためには、物事を決めていくプロセスを重視し、
5 透明性の優れた組織運営を行うことが肝要です。

6 我々は社会に求められる事業を構築していくために、総会の意義や重要性の周知を徹底し、
7 厳格な設営・運営をおこないます。また、宇都宮 J C の事業計画を精査、承認をする理事会
8 等諸会議では議案上程マニュアルを策定し、期日と基準を遵守した議案の提出を促し、効率
9 的な理事会運営をおこないます。そして、アジェンダシステムを運用し、事前に議案を確認
10 できる環境を構築し、諸会議を効果的に進行します。また、決定事項の明確化と会議内容を
11 共有化し委員会をより効率的におこなうために、規程に準じた議事録の作成を促すとともに
12 管理を徹底し、事業構築プロセスの透明性をもたせます。そして、各種事業・会議を円滑に
13 実施するために、事務局・JCルームの維持管理及び備品の管理を行い、整理整頓、不備不
14 足のない環境を構築します。さらに、各種事業種事業や諸大会に積極的に参加し、様々な体
15 験、経験を通して見識を深めます。また、J C 運動の原動力となる地域を愛する青年の会員
16 拡大に努めます。さらに、愛する地域を全国へ発信する機会となる全国大会招致への協力を
17 進めます。

18 今日まで宇都宮 J C の築きあげた組織運営を基に、効果的で進化し続ける組織運営を築き
19 あげ、強固な組織基盤を構築します。その結果、社会から必要とされ、市民から信頼を集め
20 る組織を築き上げていきます。

21 <事業計画>

- 22 1. 総会の設営及び運営
- 23 2. 総会及び理事会等諸会議の資料・議事録の作成と管理
- 24 3. 事務局・J C ルームの維持管理及び備品の管理
- 25 4. 委員会議事録の管理
- 26 5. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 27 6. 積極的な会員拡大
- 28 7. 全国大会招致活動への積極的な協力
- 29

専務グループ

渉外委員会 事業計画（案）

渉外委員会 委員長 渋江 恵一朗

1 宇都宮 J C は、より良い地域社会の実現のために多くの市民に対して、我々の運動と組
2 織の存在を最大限に周知し、市民協働の運動に拡がりをもたらすことが必要です。また、
3 まちを牽引する J A Y C E E として市民のニーズに応える運動を展開し、効果的な運動の
4 波及を行うために、率先して関係諸団体との連携を図りながら L O M の組織運営を支援し
5 て行くことが肝要です。

6 まず、2015年度の理事長所信及び事業内容を関係諸団体の皆様に周知するため
7 に、新春交流会を実施し、交流を図ることで効果的な運動の波及を行います。また、厳格
8 な理事会等諸会議を円滑に進行するための設営を行うとともに、役員のスケジュールを綿
9 密に管理し、活動に邁進できるよう補佐業務をいたします。次に、本年度出向するメンバ
10 ーが、様々な経験を享受し、新たな気づきを得ることで、更なる成長の機会に繋げるため
11 の支援をいたします。さらに、メンバーの視野を拡げ、新たな価値観を見出すために、J
12 C I ・日本 J C が実施する各事業、諸大会への参加促進と対応を行います。そして、じゃ
13 がいもクラブ及びシニアクラブ、関係諸団体との円滑な交流を行うための連絡調整をいた
14 します。また、親善を深めるために姉妹 J C 並びに友好 L O M との情報交換を行います。
15 さらに、災害発生時の非常事態に備え、各種支援の窓口として迅速で的確な対応をいた
16 します。

17 本年度、宇都宮 J C が実施する運動の意義や目的を効果的に波及し周知することで市民
18 協働のまちづくりを推し進め、メンバー自らが積極的な行動による自己成長に繋がる運営を
19 確立いたします。

20 <事業計画>

- 21 1. 理事会等諸会議の設営
- 22 2. 役員の前助業務
- 23 3. 出向者の支援
- 24 4. J C I ・日本 J C が実施する事業への対応
- 25 5. 新春交流会の実施
- 26 6. じゃがいもクラブ及びシニアクラブへの対応
- 27 7. 姉妹 J C 並びに友好 L O M との窓口
- 28 8. 災害発生時における各種支援の窓口
- 29 9. 関係諸団体への対応
- 30 10. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 31 11. 積極的な会員拡大
- 32 12. 全国大会招致活動への積極的な協力

専務グループ

広報メディア戦略委員会 事業計画（案）

広報メディア戦略委員会 委員長 篠原 務士

1 近年、宇都宮市でまちづくりに取り組む団体は数多くあります。個人でもボランティア
2 に参画する市民が多く見られるようになってきました。規模や手法は異なってはいます
3 が、まちづくりを志す市民がより増えることで、今以上に市民協働の運動に拡がりを生ま
4 なくてはなりません。そのために我々は、多くの市民に向けて効果的な運動をさらに波及
5 していく必要があります。

6 まず、宇都宮および宇都宮 J Cに係わる情報を、ホームページやSNS、広告媒体を活用
7 し、地域やメディアへアプローチすることで、その反応を受信しLOM内にフィードバック
8 することで、さらに精査した情報を対外へと発信していきます。次に、宇都宮 J Cが主催、
9 参加する事業の記録、管理を行い、多くの市民に閲覧してもらえる環境を整えます。また、
10 ホームページなどの情報発信ツールを整備するとともに、メンバーメーリングの構築と運
11 用を行い利便性を高めます。さらに、宇都宮 J Cの運動を多くの市民に波及させるため、映
12 像やポスター、リーフレット、チラシを用いて宇都宮 J Cの魅力発信します。また、まち
13 を輝かせる人財を育成するために、経営資質に繋がる事業の実施をしていきます。さらには、
14 多団体が集う事業に参画することで、地域と繋がり、まちづくり活動を発信し、宇都宮及び
15 宇都宮 J CをPRします。そして、宇都宮 J Cが主催、参加する事業の告知、報告を行い、
16 その魅力を伝える効果的な広報活動の支援を行います。そして、各種事業、諸大会に参加し、
17 魅力を伝えメンバーの参加を後押しし成長の機会に繋がります。J C運動を伝播させ、入会を
18 促進する情報を発信し会員拡大に努めます。全国大会招致に向け宇都宮の魅力発信し、招
19 致活動に積極的に協力します。

20 多くの団体、市民と連携し、行政と共に運動を展開していくことで、宇都宮のPR及び、
21 宇都宮 J CのPRを力強く推し進めていきます。そして、宇都宮 J Cの運動を波及させるこ
22 とで、まちを輝かせる人財を育成します。

23 <事業計画>

- 24 1. 宇都宮及び宇都宮 J Cに係わる情報の受発信
- 25 2. 宇都宮 J Cが主催・参加する事業の記録・管理
- 26 3. メンバー間の情報共有システムの構築と運用
- 27 4. 運動の波及を見据えた J Cの魅力の発信
- 28 5. 経営資質の向上に繋がる事業の実施
- 29 6. 宇都宮及び宇都宮 J CをPRする事業の実施
- 30 7. 各種事業の効果的な広報活動の支援
- 31 8. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 32 9. 積極的な会員拡大
- 33 10. 全国大会招致活動のへ積極的な協力

人財育成グループ

研修委員会 事業計画（案）

研修委員会 委員長 増渕 勝明

1 未来の宇都宮を魅力あるまちへと発展させていくには、J A Y C E E だけでなく、未来に
2 対して責任と誇りを持った、社会を変革に導いていく人財が必要です。明るい豊かなまちづ
3 くりを目指していく宇都宮 J C は、市民一人ひとりが成長する事業を行い、未来のまちのため
4 に何事にも真摯に挑戦し「人財育成」「自己成長」に繋げていきます。また、市民のニー
5 ズに合致した事業を行うことにより、市民の心の琴線に触れ、当事者意識を高めます。

6 まず地域の抱える経済問題や社会問題、市民やまちの潜在的欲求など市民のニーズを的
7 確に把握しなければなりません。そして、市民協働のまちづくりを行う中で、宇都宮市の行
8 政機関に限らず多種多様なまちづくりに取り組む団体との連携を深め、市民の当事者意識
9 を高め、人財育成に繋がる事業を展開していきます。また、市民のニーズに応える事業を行
10 うことによって、市民の心の琴線に触れ、自ら行動を起こしていく契機となる意識変革を目
11 的とします。そして、我々が住む宇都宮市また宇都宮市民としての「魅力あるまち」、「魅
12 力ある人財」とは何かを感じとる事業にしていきます。また、ビジターが参加しやすい事業
13 を行い、志を同じくし未来のまちを共想しあう仲間をひとりでも多く集め、会員拡大のツ
14 ルとします。

15 研修委員会では、未来の宇都宮を魅力あふれるまちへと発展させていくために、市民のま
16 ちづくりに対する当事者意識を高め、J A Y C E E と市民一人ひとりが社会を変えていく
17 ためのより良い発展と成長の機会を提供します。そして、まちが一体となって、夢や希望を
18 持てる明るい豊かな社会を築いていきます。

19 20 <事業計画>

- 21 1. まちの人財育成に繋がる研修事業の実施
- 22 2. 市民の心の琴線に触れる研修事業の実施
- 23 3. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 24 4. 積極的な会員拡大
- 25 5. 全国大会招致活動への積極的な協力

人財育成グループ

青少年育成委員会 事業計画（案）

青少年育成委員会 委員長 宮林 大佑

1 宇都宮が魅力的なまちとして発展していくためには、人としての魅力をもった「人財」
2 が必要なのではないのでしょうか。努力することの大切さ、勝つ喜び、負ける悔しさ、そし
3 て相手を思いやる気持ちを経験することは、まちのたからである子どもたちが、自信と希
4 望に満ち溢れ、実行力を伴った魅力ある人材へと成長する糧になります。

5 青少年育成委員会は、わんぱく相撲やダンスという事業を通じて、子どもたちが真剣に競
6 い合い、表現を行う場を提供してまいります。5月には第34回わんぱく相撲うつのみや場
7 所を開催し、優勝した子どもたちに第31回わんぱく相撲全国大会に出場する機会を提供
8 します。我が国古くからの伝統である相撲が持つ礼節に触れることにより、相手を思いやる
9 心を体得し、地域社会の大人との交流により、子どもたちに礼儀や感謝の気持ちを学ぶ機会
10 といたします。そして、自分の体ひとつを頼みとする白熱した真剣勝負は、勝利することで
11 得られる自信、敗北の悔しい経験から得られる負けても立ち上がり、勝つために努力する姿
12 勢を子どもたちにもたらしめます。9月にはダンス事業を開催いたします。競技としてのダン
13 スは、目標に向かって日々努力することの大切さ、仲間とともに感情をこめてダンスを踊る
14 ことによる他者との感情共有、自己表現の楽しさを子どもたちが経験する機会になります。
15 また、今年で5回目となるダンス事業を検証し、これからのダンス事業の方向性を模索いた
16 します。

17 青少年育成委員会では、今までの事業の枠にとらわれることなく新たな手法を模索し、相
18 撲やダンスといった、それぞれ特性の異なる事業を提供することにより、子どもたちが「努
19 力・礼節・思いやりの心」をもち、自信と希望に満ち溢れ、実行力を伴った将来の魅力ある
20 「人財」へと成長してもらいます。

21 <事業計画>

- 22 1. 第34回わんぱく相撲うつのみや場所の実施
- 23 2. 第31回わんぱく相撲全国大会への対応
- 24 3. 第5回宇都宮ストリートダンス選手権の実施と検証
- 25 4. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 26 5. 積極的な会員拡大
- 27 6. 全国大会招致活動への積極的な協力
- 28

未来創造グループ

50周年準備委員会 事業計画（案）

50周年準備委員会 委員長 福田 智弘

1 宇都宮 J C は本年で設立 49 年目を迎えます。明るい豊かな社会の実現を目指し、今日
2 まで地道に努力を積み重ねてきた先輩方から受け継ぐ歴史が、私たちにはあります。50
3 周年の節目を目前として、脈々と受け継がれた創始の精神を損なうことなく、今よりもさ
4 らに輝き続けるためには、過去 48 年間の歴史を知ること、宇都宮 J C の将来の運動を
5 どのように展開していくべきか、考えていかねばなりません。

6 50周年準備委員会では、宇都宮 J C の歴史と過去の運動について調査し、検証内容をま
7 とめていきます。LOM 内の各資料のほか、LOM や関係団体の先輩方にも話を伺い、J C
8 活動の根幹となった当時の先輩方の想いを受け継ぎ、未来の運動へと繋げるべく、多面的な
9 調査に臨みます。また、それぞれの節目となる年を機に、どのように運動が展開していった
10 か、J C の単年度制のなかでも、中長期的な目標を得て行われた事業について焦点を当て、
11 検証していきます。そして、委員会での調査・検証で得た成果をまとめ、メンバーへと発信
12 する機会として 9 月に例会を行います。これまで積み重ねられた J C 運動の記録である L
13 OM の歴史について、メンバー一人ひとりに学んでもらい、設立以来、受け継がれてきた想
14 いに触れる場といたします。また、委員会での調査と例会の検証結果をもとに記念すべき 5
15 0 年目を担う次年度へと引き継ぎを行い、50周年へ準備といたします。

16 委員会での調査や例会を通じた先輩方との交流により、50周年という節目の年を盛り
17 上げ、次年度の周年事業を円滑に行うための、関係を構築していきます。そして、メンバー
18 一人ひとりが LOM の持つ歴史に対する知識と重ねられてきた想いを知ること、50周年
19 に対する意識の昂揚を図り、未来の宇都宮 J C のビジョンを考えていくための機会を創出
20 いたします。

21 <事業計画>

- 22 1. 宇都宮 J C 過去 48 年の歴史と運動の検証事業の実施
- 23 2. 翌年の 50 周年事業への準備
- 24 3. 翌年の 50 周年事業に向けてメンバー意識の高揚
- 25 4. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 26 5. 積極的な会員拡大
- 27 6. 全国大会招致への積極的な協力

未来創造グループ

全国大会招致推進委員会 事業計画（案）

全国大会招致推進委員会 委員長 山田 修嗣

1 2012年の総会決議で全国大会主管へ歩むことを決めた宇都宮J Cは、それ以来、毎
2 年に渡り会議体の設置や日本J C全国大会運営会議への出向者の輩出など、主管立候補に
3 向けた歩みを進めてきました。2018年度第67回全国大会に正式に主管立候補する本
4 年度は、根幹である招致理念をメンバーに浸透させ、知識・見識の向上と全国大会招致へ
5 の意識をさらに昂揚させていきます。

6 まずは、全国大会主管立候補に備えるべく、全国大会招致会議を開催し、招致理念の浸透
7 や各ファンクション会場候補地の選定、さらには宇都宮の将来の方向性や地域ビジョンを明
8 確にしていきます。そして、全委員会協力のもと知恵を出し合い議論を深め、一体的に準備
9 を進めます。また、2月には市長をお招きし、市長例会を開催します。ここでは、行政の掲
10 げるまちづくりビジョンや最新の取り組みを理解し、会員一同全国に発信できるまちの魅力
11 について理解を深め、まちづくりを牽引していくリーダーとしての自覚をさらに高めていき
12 ます。そして、7月には日本J C全国大会運営会議との対話集会並びに現地調査を実施しま
13 す。この場では招致理念を発表し、宇都宮の魅力を余すことなく発信します。準備の段階か
14 らLOM一丸となって取り組むことで、メンバー一人ひとりの当事者意識を高め、そこで得
15 られる学びや気付きとともに、主管に向けた意識を昂揚させます。

16 全国大会招致活動はそれ自体がまちづくり運動のひとつの形であり、必ずJ Cメンバー
17 の意識を変革させ、未来を見据えた人財育成につながります。宇都宮J Cの成長および宇
18 都宮の魅力を発信する機会を得るべく、全国大会招致を積極的に推進していきます。

19 <事業計画>

- 20 1. メンバーへの招致理念の浸透
- 21 2. 全国大会招致に向けたメンバーの知識・見識の向上と意識の高揚
- 22 3. 全国大会招致会議の設営と実施
- 23 4. 対話集会及び現地調査への準備と対応
- 24 5. 全国大会招致に向けた日本J C及び関連LOM・各種諸団体との連携
- 25 6. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 26 7. 積極的な会員拡大
- 27 8. 全国大会招致活動への積極的な協力

まちづくりグループ

宮まつり委員会 事業計画 (案)

宮まつり委員会 委員長 木村 武士

1 宇都宮 J C 創立 10 周年の記念事業として始まり、本年で 40 回の歴史を迎える「ふる
2 さと宮まつり」は過去の検証のもと次の 10 年を見据えて、参加する全ての団体そして多
3 くの市民が今よりももっと身近に感じる一体感をもった企画・運営を行わなければなりま
4 せん。また、生きる上での基本であり、知育・徳育・体育の基礎となる食育について、知
5 識と選択する力を習得し、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育まなければ
6 なりません。

7 まず、開催委員会事務局・実行本部への出向と各団体との連絡会議を重ね、多くの市民・
8 企業・行政を巻き込み、テーマである「であいとふれあいの広場」を構築し、まちが一体と
9 なった「ふるさと宮まつり」を実現します。さらに、40 周年に相応しく市民の期待に応え、
10 最高の記憶に残るように、新たな挑戦をして発展させます。そして、宮まつりの歴史やまち
11 の文化を多くの市民に認識してもらうため、様々な団体と協力をして記録を残します。また、
12 地産の食材を使い食育事業へ協力をして、人々の食に対する関心や意識向上の一端を担い
13 ます。

14 参画団体・企業・市民が一体となったまちづくり事業を行うことで市民の記憶に残り、
15 伝統文化や「ふるさと宮まつり」の歴史を継承して、次の 10 年先まで地域に根付く事業
16 としていきます。また、食育事業を通じ健全な食生活の実現、地産食材への関心や健康の
17 確保等が図れるよう、食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断
18 力を養う事が出来ます。

19

20 <事業計画>

- 21 1. 第 40 回ふるさと宮まつり企画と運営
- 22 2. ふるさと宮まつり過去 39 年の検証
- 23 3. 開催委員会事務局・実行本部への出向と各部会・各団体との連絡会議の実施
- 24 4. 食育事業への対応
- 25 5. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 26 6. 積極的な会員拡大
- 27 7. 全国大会招致活動への積極的な協力

まちづくりグループ

政策委員会 事業計画（案）

政策委員会 委員長 飯塚 浩司

1 我々の住み暮らすこのまちは、市民自らが当事者意識を持ち地域の課題やまちづくりに
2 取り組む市民協働型社会へと拡がりつつあります。さらに魅力あるまちや社会を構築する
3 ためにも責任世代である我々青年が、まちづくりを志す市民と共に歴史やまちの成り立ち
4 を今一度学び、多角的にまちづくりを考え、市民自らがより豊かなまちづくりを構築でき
5 る社会を創りあげなければなりません。

6 まずは、我々の住み暮らすこのまちの発展のために、行政に限らずまちづくりに取り組む
7 団体やまちづくりを志す市民と共に連携を深め、未来を見据えたまちづくりを市民と考え、
8 より効果的な運動を波及して行きます。このまちの魅力を深く伝えることにより市民の琴
9 線に触れ、市民の意識に変革を起こし、まちを輝かせる人財を育成します。また、市民、そ
10 して我々が戦後70年目という節目の年を迎えるなかで、この国の歴史を深く知り学ばな
11 ければなりません。どのようにして復興をし、急成長を遂げることができたのか、歴史を紐
12 解き戦後の教育についても、調査・研究をします。まちに誇りを持つ市民を育成し、先人た
13 ちから連綿と受け継ぐべく知識を市民へと伝播し郷土愛の醸成につなげることで、明るい
14 未来をつくりあげる人財を創出します。

15 我々は、この国やまちの歴史を真摯に学び、住み暮らすこのまちへの愛着を持つことによ
16 り市民の当事者意識を醸成させ、郷土に誇りを持つ市民で溢れる輝かしいまちづくりを行
17 い、明るい豊かな社会を創りあげます。

18 <事業計画>

- 19 1. 他のまちづくり団体との連携事業の実施
- 20 2. 郷土愛の醸成に繋がる事業の実施
- 21 3. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 22 4. 積極的な会員拡大
- 23 5. 全国大会招致活動への積極的な協力

日本 J C 関係特別委員会 事業計画（案）

日本 J C 関係特別委員会 委員長 渡邊 泰行

1 宇都宮 J C はまちを愛し、市民と共に明るい豊かな社会を創り上げるため運動を続けて
2 いる団体です。メンバー一人ひとりが自己研鑽を繰り返して人間力と指導力を向上させ、社
3 会開発を推進してきました。この先、我々がまちの理想となる未来像を発信して運動に拮が
4 りを出していくにあたって、出向を志すメンバーが積極的に行動を起こして成長の機会を
5 つかみ取り、新たな気づきを L O M に持ち帰って更なるまちの発展に貢献すべきです。

6 まずは、出向者がそれぞれの出向先で担当する事業を成功に導くために、日本 J C が行う
7 事業において各々が得られる情報の共有を行って相互に働きかけて連携し、出向先におい
8 ても L O M の関係性を生きたネットワークを構築します。そして、出向者のみならず L O M
9 のメンバー全員が成長する機会を享受するために、出向で得ることができる経験や知識、事
10 業構築の手法を活かした研修事業を実施し、L O M に新たな価値観や物の見方、考え方をも
11 たらすと同時にメンバー一人ひとりにも出向へ挑戦する意欲を高めます。さらに、この研修
12 事業をメンバーにとってより効果的かつ有用性の高いものにするために、日本 J C の事業、
13 運動に対する理解度やイメージ、出向に対する考え方や捉え方を調査把握し、出向を自己成
14 長の機会として自らつかみ取る意欲をもった人財を育成します。また、日本 J C をもっと身
15 近に感じてその運動論に興味を持ってもらうために、出向先で展開する各種事業や諸大会
16 の事業内容を紹介することでメンバーの参加意欲と積極的な参加を促し、日本 J C の事業、
17 運動への参画が人財育成の場として有効であるという理解を広めます。

18 日本 J C のスケール感をもった事業構築のフィードバックという手法に基づく人財育成
19 が想像力と行動力溢れた人財の創出をし、出向者自身も日々の経験を重ねて自己成長し、自
20 らが L O M に変化を与えられるリーダーへと変わる 1 年と位置付け、真摯に挑戦します。

21 < 事業計画 >

- 24 1. 出向者同士の情報交換と協働連携
- 25 2. 出向先の経験を活かした事業の実施
- 26 3. 各種事業や諸大会への積極的な参加
- 27 4. 積極的な会員拡大
- 28 5. 全国大会招致活動への積極的な協力

会員拡大特別委員会 事業計画（案）

会員拡大特別委員会 特別委員長 小瀧隆義

1 青年会議所運動でもっとも重要なものの一つに会員の拡大があります。志を同じくするメンバ
2 ーが一人でも多ければまちづくりの運動もさらに伝播することが出来ます。全国的に見ても新入
3 会員の減少が続いておりますが地域を照らし輝かすことができるのは夢を持った青年経済人の集
4 まりである我々青年会議所しかありません。今こそ、責任世代である我々青年が地域の未来を形
5 作るための原動力となり、地域を照らす運動と組織を輝かせ何事にも真摯に挑戦する人財を育成
6 していかなければなりません。

7 会員拡大には、正解がなく手法は常に変化しております。今年度は日本 J C からの支援、各 L
8 OM との連携、卒業された先輩諸兄との交流をより一層深めていく一年とします。また、時代の
9 ニーズに則したものを考え活動をして行く必要があります。そして、情報収集と率先した行動力
10 が必要とされます。全員で情報共有やリストアップを行い、月々の入会目標を明確にし、新入会
11 員からの情報なども活用した会員拡大運動を進めます。新入会員対象のアカデミー研修や基礎研
12 修を行い、一日でも早く J A Y C E E としての基礎や心構えを醸成します。1 2 月には例会を実
13 施しますが、新入会員中心で例会を構築していくことは、今後の J C 活動において自ら考え真摯
14 に挑戦する姿勢を作りだし、他者を慮る心をもった人財の育成にもつながります。宇都宮 J C と
15 して一年間の最後の例会であり卒業式でもありますので、厳かな雰囲気としっかりとした設営で
16 我々の誇りでもある卒業生を送り出し一年を締めくくります。

17 宇都宮 J C に入会することで、大きな夢を語れる新しい仲間を作りメンバー同士が切磋琢磨し
18 自己成長をつづけることで、組織全体の運動意識の高揚が図られ自らが住み暮らす地域をさらに
19 魅力あふれた地域へと創造する事できる牽引役になる人財を発掘いたします。

20

- 21 ①入会希望者の窓口・フォローアップ
- 22 ②新入会員のための J C 基礎研修の実施
- 23 ③会員拡大のための情報収集
- 24 ④1 年を総括する事業の実施
- 25 ⑤各種事業や諸大会への積極的な参加
- 26 ⑥積極的な会員拡大
- 27 ⑦全国大会招致活動への積極的な協力